

釣れ釣れなるままに

2013年思い出の釣行記 PART. 9

鹿島釣狂

大楯でのカレイ釣り

5月26日に苫小牧西港のクロガシラ釣りで惨敗したので、小平大楯海岸での真ガレイ釣りでリベンジを誓った。しばらく晴天の暖かい日が続いたので真ガレイも岸寄りしていることだろう。「つりしん」では天塩、遠別、花岡で真ガレイが好調との記事が載った。それで、6月1日(土)の午後から出かけることにした。

12時半に自宅を出発し留萌三泊港に立ち寄ってみた。岸壁には釣り人が満杯状態で並び、豆イカがポツラポツラと釣れているようだった。岸壁の先端の一段低くなったところで投げ釣りをしている人がいた。人一人ではとても下りられそうにもないところだったのでどの様に下りていったのだろう。よく見るとテロ対策フェンスとの境目に梯子が立てかけられてあった。なるほど周辺が豆イカ釣りで混み合う中で、そこでは他人に気兼ねなくあずましい投げ釣りが出来そうだった。

15時には小平町大楯に着いた。周辺ではサクラマスやカレイを狙った釣り人がいたが、比較的空いている。本日は絶好の釣り日和である。ロケットカゴ付きL型天秤仕掛2本、普通のカレイ仕掛2本で打ち込みを開始した。カゴ付きにイシモチと川ガレイが立て続きに来た。カゴに赤アミを入れて続けているとアカハラが寄り出したので、カゴを外して全て遠投に切り替えた。すっかり暗くなった時点で終了したが、川ガレイ2、イシモチ2、ホッケ2、アカハラ6の釣果だった。右隣りでテントを用意した泊り込み体制の釣り仲間3名は、カジカ40cm、クロガシラ30cmなどを手にしていた。夜通し釣り続けるという。私は車に戻って遅い夕食をとり、酒をチビチビ飲みながら眠りについた。

車のドアを閉める音で目が覚めた。まだ暗いうちから駐車帯にはたくさんの車が停めてありルアーマンが釣り場を目指していく。まだ夜明けには早いが私も浜に出て打ち込みを開始した。しばらくアタリがなかったが5時頃からアタリが出始めて、クロガシラ2、イシモチ3、砂ガレイ4、川ガレイ2の釣果だった。結局この2日間で真ガレイは釣れなかった。

8時過ぎに荷物を片付け、途中、三泊港に立ち寄ってみた。豆イカがぼつぼつ釣れているようだった。テロ対策フェンス横に昨日からのワゴン車が停めてあり、やはり下の段に下りて投げ釣りをしていた。眠い目を擦りながら何気なく見ていると、その竿先にアタリが出た。大きく竿を曲げながら取り込んだのは40cmはあろうかという大きな真ガレイだった。のんびりと釣り風景を眺めていると投げ釣りの竿を出しながらの豆イカ釣りもいい

のかなと思った。小平温泉で汗を流しながらその気持ちを強くしていった。



今回の釣果。これではリベンジしたことにはならないだろう

「金ナマ！！ナイト倶楽部」

ここしばらくは毎週のように釣りに出かけていた。今週末は釣行をお休みにしようかと考えていると、岩見沢市と近隣市町村の一部をエリアとしたローカルラジオ放送局である「FMはまなす」から出演依頼が来た。金曜日の夕方6時からの「金ナマ！！ナイト倶楽部」という1時間のナマ放送である。「ゲストを招いて楽しいトークをお届けします」という企画らしいのだが、岩見沢釣遊会が創立50周年記念事業を計画していることを聞きつけたスタッフが、事務局の私に交渉してきたのである。

当日は、午後6時少し前に駅前にある「岩見沢コミュニティプラザ」に到着し神妙な心持で待っていると、女性パーソナリティの「エリリン」が気さくに話しかけてきた。エリリンは全くの釣り素人だが男性デスクジョッキーの「スパイシー」は釣りの経験があるので3人で楽しいトーク番組にしましょうと、打ち合わせもなく番組が始まった。少し緊張したが順調に進んだ。釣り大会後の魚の処理で女房の話題に発展している最中に、余裕をこいて辺りを見回すと、放送室の窓越しに女房が手を振っているのが見えた。女房への罵詈雑言には慌てて口をつぐんだ。自宅で聞いていた息子に言わせると「はじめは妙に緊張し上ずった甲高い声だったが、次第に慣れてきたのか、いつもの釣り好きの親父になってベラベラとしゃべっていた」ということなので、まあ事なきを得たのかなと思われる。し

かしその後、その放送を聞いていた北海道新聞やプレス空知からも取材が来て、何だか忙しい週末となってしまった。そして、取材で釣りのあれこれを話していると、体中から釣り虫が疼いてきてしまった。そんなわけで、その虫を鎮めるために釣遊会仲間や息子には遠別でカスベを釣ってくると豪語して出かけてしまった。

釣りきち三平と女子高生

6月8日午後2時頃、遠別の釣り突堤にある駐車場に着くと、昨年の小平町大堰で一緒に釣りをした滝川市在住の和田哲男氏に出会った。「北海道の釣り」に和田氏のことに触れた原稿を書いてから、もう会うことはないだろうと思っていたが、何か不思議な縁を感じる。和田氏によると昨日は天塩港砂防堤で真ガレイがたったの1枚、しかたなく朝方、遠別に来てようやく真ガレイ15枚の釣果だったとのことだ。

和田氏と話している最中、軽トラで来た地元の人が、竿袋とバケツ一つで突堤へと向かったのも、私も一緒に竿袋だけを担いで付いていった。狙いとしていた釣り突堤の左端にも右端にも釣り人がいたので、私は左角の子連れ釣り師の手前で竿を出すことにした。ここも実績のあるところだと聞いている。地元の釣り人の話によると、カスベは5月中旬で終わってしまい、一昨日は、左角に入っていた釣り人が100枚以上の真ガレイを釣り上げ、今日は和田氏が20枚程で最高だったということだ。先に左角に入っていた釣り人は和田氏が帰ったので右角から移動してきたということだ。小学3年生の息子さんが得意げに見せてくれたバツカンを覗くと40cm強のクロガシラが収まっていた。

釣り場は比較的空いていたので、4本の竿を出した。まず、遠投で40cm程のホッケが来て、まもなく35cm程のカジカも来た。ポツン、ポツンと真ガレイ、川ガレイ、ホッケ、イシモチが上がった。

私たちが釣りをしている突堤の上空をモーターパラグライダーが旋回している。大きな扇風機のようなプロペラ付きエンジンを背負い、これを動力として自由に高度を上げ下げしながら空中散歩を楽しんでいるのだ。エンジンが付いているから平地からの滑空も可能となり、遠別川河川公園「水と緑のふれあい広場」から飛び立ってきているのだ。鳥のように大空を羽ばたいているのはさぞ気持ちよかろうと、その鳥人間に向かって手を振ると、隣の男の子も手を大きく振った。しかし、その鳥人間は手が塞がっているためか振り返りはくれない。何度も手を振っているのに返事してくれないので、その男の子は「冷たいやつだ」とボソッとやった。

大きなアタリが出た。竿を煽ってリールを巻いているとその手ごたえが、アカハラのような気もする。何気なく「アカハラかな」と呟くと、男の子が「アカハラだといいいのに」とボソッとやった。「えっ」と聞き返すと「だっておじさんばかり釣っているもの」と口を尖らせた。そういえば、隣は私が竿を出してから1匹も釣れていないのだ。そして男の子も2本の竿を上手に操って、一生懸命打ち返していたのだ。私は「隣同士で釣っているのだからお互いに応援しながら気持ちよく釣りをするんだよ。おじさんはあなたにたくさ

ん釣って欲しいと願っているんだよ」と言っはみたものの、男の子が納得したようには見えなかった。大きなアタリの主はアカハラではなく30cm強のクロガシラだった。すると男の子は「なあんだ。お父さんが釣ったのよりずいぶん小さいね」とホッと安心したように呟いた。

お父さんは「息子が4歳の頃より溪流でヤマメ釣りを始めた。先日は息子と一緒に知内にマコガレイを釣りに行ってきた。ようやく生きたイソメを付けられるようになり、投げる方向も一定するようになってきたので、今日は全く息子のいいようにやらせている。負けず嫌いは母親似で、私とも釣果を競うようになってきた。今日はもう釣れそうもないので引き上げます」と言って片付け始めた。男の子は不満そうだった。

隣人が引き上げた5時以降は全くアタリが途絶えてしまった。そこへ5人の高校生が自転車に乗ってやってきた。女子高生がリーダー格のようで男子生徒にあれこれと指図をしている。その女子高生は、釣り突堤の中ほどで朝から釣りをしていた方のお孫さんのようだ。彼女は竿の振り方、リールの巻き方、魚の外し方などを細かく指導している。イソメを気持ち悪がって付けるのを躊躇している男子生徒をなじりながらも、丁寧に付け方を教えている。それに男子生徒も素直に従っている。最近のひ弱な男性と男勝りな女性の姿を地でいっている感じだ。男子生徒が飽きてしまわないようにと、魚が釣れた時の彼女の喝采ぶりは見ていて気持ちがよいぐらいだった。

その高校生集団と入れ替わるように、若い釣り人がやってきて、早朝に向けて三脚だけを設置して車に戻った。私は竿を設置したまま車に戻り寝酒を飲んだ。ウトウトと眠りに就こうとすると新しい車がやってきて、突堤に竿を設置してから戻ってきたようだった。



利尻富士に夕日が沈んだ

PEとナイロン

車のドアを閉める音で目が覚めた。隣の車のごそごそやりだしたようだ。まだ夜が明けていないが、私も準備を整えて突堤に上がった。風は昨日より強く背後から吹いてきていた。私が置き竿していた竿にはエサがそのままの状態が付いており、暗いうちに魚がエサを銜えることはなかったようだ。まもなく右で置き竿をしていた人がやってきてリールを巻いた。その竿に真ガレイとホッケがダブルでついていた。2本目の竿にも真ガレイと川ガレイ、3本目の竿にもクロガシラと、合わせて5匹の獲物があった。昨日の高校生集団が竿を出していた突堤の中間辺りがよかったのだろうか。

右隣で三脚だけを置いていた若者は、陽が上ってからからやってきた。そしてのんびりと準備してからその第1投を振り込んだ。その仕掛けが私のほうに飛んできて、オマツリしてしまった。私に「すみません」と頭を下げてから投げ直すと、今度は右隣の人の方に仕掛けが飛んだ。仕掛けを回収しようとするより更にその右隣の人の道糸をも引っ張ってしまった。そして、何度かやっては見たもののもの横から吹いてくる風が強くて調整がきかずに早々と引き上げてしまった。

私は、ポツン、ポツンと正面方向の竿に真ガレイ、ホッケが釣れた。がらんと空いていた左角の方に遠投してみたがそこからはアタリが出なかった。風向きが変わった。背中から吹いてくる東の風から南西方向の風になり、更に胸壁に身を寄せて座り込まなければならぬほどに強く吹き荒れるようになってきたので、道糸をPE0.8号からナイロン2号に替えた。海水にも濁りが出てきた。遠別川からの流れが押し寄せてきて、突堤の左角だけが青く澄んだ色になっている。竿を角に移動させ澄んだ海の中に仕掛けを入れると、真ガレイ、真ガレイ、クロガシラと続いた。



2日目の釣果

今回の道糸はPE0.8号とナイロン2号を用意した。PE0.8号は1個がテーパーラインの結び目から切れたので、代わりに5号ナイロン糸をリーダーとして結んでみた。自宅前で何度も強く引いて実験してみると0.8号のPEライン側が切れてしまう。リーダーの強度としては問題がないようだ。しかし、実際に竿を振ってみると違和感があった。15m程のナイロンリーダーなのだがナイロン独特の弾力性があり、最初のうちは戸惑うことになった。しかし、何度かやっている内にその弾力を借りて遠投できるようになってきた。

苫小牧港のハモ釣りではヒトデ対策にPEを使用してきた。ハモではなくヒトデが乗った時にもそのアタリが出るのだ。しかし、今回の釣行のように風が強いと糸ふけが出て扱いづらいのが欠点だ。道北の日本海ではヒトデに悩まされることもないのでナイロンで十分だと思った。

「山甲の湯」

陽が高く昇ってきたので釣りを終えようと片付けていると、船釣りで出港できなかった4名の釣り人がやって来た。天気予報では波も風もなく絶好の船釣り日和になるはずだったが、朝からの強風で船主が釣り船を出すことを断ってきたそうだ。なるほど沖ではウサギが飛び交っていた。気象庁が梅雨入り宣言を出したが、首都圏では全く雨が降らなく、水瓶のダムも干上がっている状況らしい。気象庁では「宣言」とは言わないそうだ。全くうまく考えているものだ。9月に正式発表があり、そこで今年の入梅時期を確定するとい

うことだ。間違えましたとは言いたくないのだろう。今日は足寄町で31.9度を記録したと気象庁が発表した。これは間違えるはずがないので・・・コホン。

帰途に初山別温泉「岬の湯」に立ち寄り、温泉で疲れを癒した。缶ビールを1本飲み、横になるとすぐに睡魔が襲ってきてぐっすり眠ってしまった。この初山別「岬の湯」は、私が就職して間もない頃の職場の仲間で宿泊したことがある。豊岬漁港でカンカイ釣りをしようと、免許取り立ての私のボロ車に先輩3人を乗せて勇んで来たのだ。その日の夕方、私以外の3人は程よいペースでカンカイを釣り上げていたが、1本しか釣れなかった私のカンカイが40cm以上もあって最大の大物だった。

その頃の「岬の湯」は木造のひなびた一軒宿で、壁を1枚隔てただけの隣から物音が響いてきていた。飲兵衛仲間の私達も隣に気遣って声を抑えて釣り談義をしていたのだが、そのうちに隣の物音が女性のすすり泣くような喘ぎに変わって漏れてきた。女性は声を出してしまわないようにと押し殺すようにしている風なのだが、それが妙に艶めかしく伝わってきて、私達も釣り談義を中断せねばならなくなって布団に潜り込んだ。先輩達はともかく、まだまだ独身で若かった私は、頭まで布団を被って聞こえないようにしていたが、その忍び声が何時までも耳に残り、悶々とした一夜を過ごさなくてはならなくなったのだ。

朝方は冷え込んで大物カンカイが期待されたが誰にも一度のアタリも出なかった。気づかれぬように先輩達の顔を見ると、私と同じように眠られぬ夜を過ごした跡が、瞼の下にくっきりと残っていた。遠い昔の話である。

留萌市大和田でトイレタイムをとってから高速に乗った。安全運転には心がけていたのだが、私の前を100km/時のバスが走っていた。一度抜かしてしまうとそれが癖になるのでじっとバスの後ろを付いていくとそのまま岩見沢に着いてしまった。その時の我が愛車の燃費メーターは、16.4km/ℓを指し示していた。今までの最高燃費である。女房に自慢すると反対に窘められてしまった。「最近のガソリン代が馬鹿にならない。そんな高いガソリンを使って毎週のように高速を走り、カレイ少々では元が取れないでしょ」というのだ。それはその通りではあるのだが・・・。

来週は釣りに行くのを自重しようか。いや、金曜日に休みを取ったから、ヤマメ釣りにでも行ってみるとするか。しかし、今年は遅い雪白水のために川が増水していて、解禁になってからもパツとした情報は出ていない。やっぱりやめにしようか。そんなことで結局、6月23日の大会まで悶々とした日々を過ごすことになってしまった。